

その後いかがお過ごしですか？プロジェクト



豊森なりわい塾



対応してくれた人の名前：中川恵子
 調査員：丹羽健司
 レポート作成者：丹羽健司
 取材日：2017年2月19日
 取材場所：豊森なりわい塾事務所(名古屋)

活動内容(3年前)

取材対応者の中川氏によれば、豊森の活動が何であるかは単に断言しにくく、あえて言うならば豊森的な幸福論を共有し追求する場であるという。塾内において「豊森的」という合言葉を共有しつつも、「豊森的」とはどのような状態であるかを自問し、塾生と塾自体が共に成長している様子が伺えた。

通称「とよもり」、豊森なりわい塾は豊田市、トヨタ自動車株式会社、NPO法人未来・志援センターの三者の協働で行っているプロジェクトである。森林および里山を学びの場とし、人と地域づくりを考え、それらを活用する仕組みづくりと担い手を創出していく活動を行っている。塾生には都市部や里山地域から、学生やトヨタ自動車の社員など、老若男女が集っている。今期が3期目となり2009年から5年目の活動となる。

塾生たちは毎回の講座で、地域コミュニティの暮らしや経済など、特に森林と共に生活する里山の問題点を学び議論を深める。さらには、実践的なアイデアを持ち寄り、住民たちと共に里山の生活に活用するような取り組みまでも行う。過去の塾生の中には、ただ学ぶだけでなく、実際に里山での生活を選択し、移住を決意した者も少なくない。

このような議論の中で形成されるのが、彼らが口にする豊森的な活動である。豊森的な活動とは、様々なフィールドの人間たちが、それぞれの思いで、森林と里山について語り合い、実践に移していくことであるのだろう。まるで様々な色の絵の具で描かれた、一つの里山の風景が目に見えようである。そこには森と里を生業とする人間たちが生き生きと存在している。

3年間で変化したこと

- ・基本的なプログラムはずっとほとんど変わらないが、豊田市旭地区に根を張ったことから、活動と成果のつながりが見えるようになった。
- ・「ああ、豊森さんね」と住民にも行政にも当たり前に周知されるようになった。
- ・トヨタ社員や市職員が増加した。
- ・募集の苦勞が少なくなった。多数の応募から「よい人」「適う人」を選別する必要はないのではと思えるようになった。主催側に、誰でも受け入れられる懐(経験蓄積)ができたと同時に、参加者の多様性や問題解決能力を信頼するようになった。
- ・成果を参加者自らが「飛び降りる」(ドロップアウトする)か、「しない」という生き方の二者択一的なものに見ていた傾向があったのが、多様な価値観をゆったりと認めあえるようになった。
- ・塾生は「もやもや」を解消したくて参加するのだが、結局、モヤモヤは解消できない。しかし、「モヤモヤが何かがあった」と言う。それでいいと思えるようになった。これまで輩出してきた先輩たちの生きる姿を見ることによっても、そう思えるのだろう。これは、ここで輩出してきた修了生100人以上(8年間)の生き方の蓄積のなせる業だと思う。

現在直面している課題

* 運営の勘どころ

- ・プログラムづくり、参加者、接触する地域などの調整ごとや、スキマを埋めていくのがスタッフの仕事。
- ・講座以外の時の塾生や地域へのサポートも大事

* 課題

・これは緩やかで確実な社会変革運動。成果としての塾生を輩出し続けることはできるだろうが、その運営を担い持続させるスタッフをどう育成していくか？

* 醍醐味

・みんなが「よかった」を共有でき、それが一瞬にして連鎖していくプロセスに立ち会えた時。

取材者感想

* 取材者感想

これまで1期ずつを重ねてきたことの自信が、参加者への深い愛情になって投影されていく。それが繰り返されて「そのままいいんだよ」という安心感を生み、参加者を解き放っているように映った。いつまでも続ける覚悟か、いつかやめる覚悟か、気持ちのいいことはなかなかやめられないゆえの苦悩もあった。

写真



目的/ねらい

- 1) これまでの4回の講座を振り返り、かつての地域の暮らしを成り立たせていた諸要素(自治や世界観(宇宙観)、ワークライフバランス(くらしとめかせぎの関係性))と、現在のそれらの関係について考える
- 2) 新しい生き方の実例として、旭にイター化した戸田さんの生き方を学ぶ
- 3) 半農半Xをキーワードに、塾生が自分自身について掘り下げ、これからの生き方・働き方・幸せを考える
- 4) 自分の課題や思いを仲間と共有することで、塾生同士の関係性をより深め、塾という学びの場をより主体的なものとする

	1日目	2日目
午前	グループトーク「これまでの学びを振り返る」	聞き書きグループワーク レクチャー「半農半Xという生き方」ゲスト・塩見直樹さん
午後	レクチャー「くらし・かせぎ・つとめを考える」駒宮博男 トークセッション「集落の暮らしとこれからの生き方考える」	ワークショップ「自分のXを考える」

